

ふるさとを愛し、豊かな心で、自らを育てる子の育成 ～12年間の連続した学びの発展をめざして～

福井市殿下中学校

1 取り組みの概要

(1) 地域や家庭と学校の連携実績

項目	回数
地域・学校協議会	3回
中学校区を単位とした協議会	3回
地域及び家庭への学校公開	11回

(2) 地域人材の活用 (のべ人数)

講師・ゲストティーチャー	22人
授業ボランティア (含: 低ボラ)	1人
登下校支援ボランティア	35人
その他 (校庭除草)	130人

(3) 特色ある活動

テーマ	「ふるさと教育」
-----	----------

地域素材を活用した学び

◇ふるさとを感じ、考え、発信する学び

自然、文化、歴史などの地域素材の教材化を図り、地域についての理解を深め、地域に発信している。社会科では地図で土地の高さや地図記号を地域に出て実測したり、遺跡マップを作成したりした。英語科では地域の様子を英語で表現したり、ALTの故郷の町と文化を比較したりして、地域を見つめ直すことができた。

◇先人の生き方に学ぶ

郷土資料「光をかかげた人々」で紹介されている地域の先人の生き方から学ぶ道徳の授業研究を継続している。学業に努力して最高学府に入学し、母校の校歌を作詞した先達や職人の技を磨き、東京で漆製品店舗を開くまでになった先人の生き方などを参考にしながら、理想を追求していくために自分の現在を見つめ直し、将来像を描くことができた。

◇地域と一体となった学校行事の充実

地区体育大会では、事前の校庭除草作業から当日の準備片付けまで地域住民と協力して行っている。競技に共に参加し、交流を深めることができた。

学習発表会は、地区文化祭と共催で実施する。毎年、地域素材を調査した内容を題材として演劇化したり、ICT機器を活用してプレゼンテーションしたりしている。

殿下地区被災者受け入れ委員会による福島の子どもたちを夏休みに招いたショートホームステイ事業では、地区行事の夏まつりを楽しんでもらえるようにと企画したセレモニーや夕暮れコンサートに生徒が主体的に参加して、福島県の子どもたちと積極的に交流できた。



夕暮れコンサートで一緒に歌う生徒と福島の子どもたち

成果と課題

体験活動を通して、地域についての理解を深め、地域の人たちとのかかわりの中から殿下のよさを十分知ることができた。さらに、地域の願いや思いを知り、地域に働きかけることで、地域の一員である自覚を深めることができた。今後は、学んだことを地域だけでなく市内・県内などより広い場へ発信したり、各種コンクールで披露していく中で活用力を身につけさせたい。

※A 4 版 1 枚で作成してください。